

コース周辺に
放牧された
牛馬150頭の
糞を取り除くのが
朝の日課だった

くまもと阿蘇カントリークラブ 湯の谷コース

熊本県阿蘇郡南阿蘇村河陽599212
〒096716710321
開場日●昭和27年9月23日
コース●18H/6487Y/P72
設計●保田与天、井上誠一
理事長●斉藤隆士

昭和5年、九州のゴルフ場は雲仙、福岡大保、長崎そして別府。熊本でも「雲仙や大保は遠過ぎる」と、翌6年7月、阿蘇外輪山の中、黒石原の草原に、元農場跡を借りて9ホール・2900ヤードのコースが誕生。

工費約1万円。熊本ゴルフ倶楽部の前身、匿名組合黒石原ゴルフ倶楽

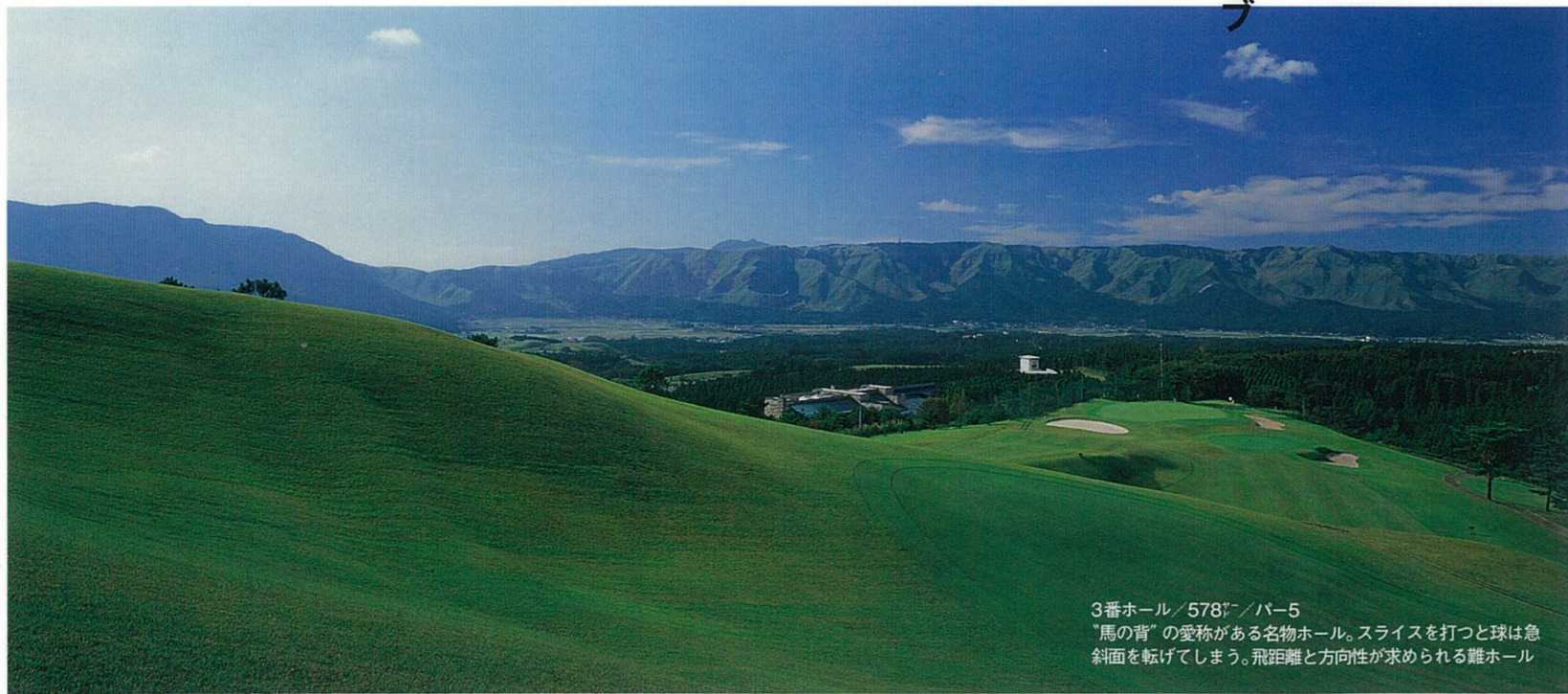
部である。設計は赤星四郎、名誉会長に熊本城の殿様・細川護立の名が並び豪華版だった。

昭和12年日中戦争勃発。黒石原の広大な草原は陸軍の演習場となり、プレー中のゴルフアールとトラブることも。19年には、通信省飛行場のため芝の大半を徴発され、遂に黒石原GCは解散。終戦の13日前だった。

終戦。昭和26年熊本県が、県予算760万円を計上、阿蘇観光開発目的のゴルフ場を企画したが実現せず。場所は、後の熊本ゴルフ倶楽部となる「湯の谷」だった。

当時、湯の谷には、サンドグリーンの米軍の簡易ゴルフコースがあった。旧会員と地元企業は、そのコースと隣接する放牧場を合わせたコースをめざし、熊本ゴルフクラブを結成する。時に昭和26年10月16日。この日「熊本ゴルフクラブ結成記念競技」を雲仙ゴルフ場で開いている。

コースは当初9ホール、設計は保田与天。土木、芝の技術者はゼロ、周辺の牧夫たちが全くの手作りで造



3番ホール/578ヤード/パー5
「馬の背」の愛称がある名物ホール。スライスを打つと球は急斜面を転がってしまう。飛距離と方向性が求められる難ホール

った野芝だけの素人なコースだった。18ホールに増設するとき井上誠一が協力、グリーンを高麗芝に張り替えるなど本格設計となったが、自然の地形を削るうとしない手法は今も「馬の背」のあだ名を持つ3番ホールのような、古典性の強い難ホールを残している。阿蘇は赤牛で名高い放牧地に囲まれたコースには、牛が進入する。牛糞のローカルルールがあったという。

14番ホール/578ヤード/パー5
自然の起伏が残されているが広々としたホール。果敢に攻めていきたい



◀(左から)●クラブハウスの暖房にはストーブが使われていた ●開場時ゴルファーはネクタイにニッカ一ポッカー姿だ



(右から)●ラフは放牧中の牛か馬が食べたが、フェアウェイを刈るモアは馬が引いた ●昭和29年撮影のコース風景